

地方都市視察報告書

文教子ども家庭委員会

1 実施日 平成27年10月22日(木)

2 視察地 青森県八戸市

【市の概要】

(1) 面積 305.54km²

(2) 人口・世帯数

(平成27年3月末現在)

○人口 236,406人

○世帯数 106,410世帯



(3) 八戸市は、昭和4年に市制施行。青森県の南東部に位置し、太平洋に面しているため、冬でも積雪量が少なく、晴天日が多い。2本の川の河口を中心とした海岸地帯には近代的で大規模な工業港、漁港、商業港があり、北東北有数の工業・水産都市として発展を遂げてきた。特にイカの水揚げは日本一を誇っている。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、同市も震度5強の大きな揺れに見舞われ、さらに6.2メートルに達する津波に襲われた。これによって、1人が死亡、1人が行方不明となり、住居878棟、非住居1,146棟が全半壊するなど、甚大な被害をもたらした。学校では、沿岸の小学校1校が津波により冠水したが、在校していた児童、教職員、避難していた近隣住民250名は、上階に避難していて無事だった。

3 視察項目・内容

東日本大震災の教訓を生かした防災教育の推進について

4 視察参加者

【委員】

あざみ民栄委員長 宮坂俊文副委員長 三沢ひで子委員

池田だいすけ委員 大門さちえ委員 鈴木ひろみ委員

えのき秀隆委員 赤羽つや子委員 伊藤陽平委員

田中のりひで委員

【随行】

議会事務局次長 大野哲男 議事係 臼井友広

5 視察結果・所感

八戸市は、東日本大震災後、被災経験をふまえた防災教育を進めている。

大変印象に残ったのは、市独自に作成した「防災ノート」を活用した教育である。「防災ノート」は、発達段階に応じた学習ができるよう小学校低学年向け、高学年向け、中学生向けがある。ノートは書き込み式になっており、家庭との連携もできるようにになっている。

視察当日は、「防災ノート」を使った実際の授業を録画したものをを見せて頂いた。先生が「このようなときはこうする」、と教えるのではなく、子どもたちに考えさせることが基本にあり、また教室だけではなく昇降口や、特別教室で地震が起こったらどうする、と実際の場所で考えさせ、行動させる学習を行っていた。

東日本大震災では、子どもを案じて探し回った親御さんが津波の被害にあったケースが多かったことを教訓に、子どもが避難していると信じて大人は自分の命を守ろう、そのためには子どもたちが自分で考え行動できるようになることが大事、との考えから、こうした学習に取り組んでいる。

東日本大震災から4年、子どもたちに心のケアも未だ行われており、防災教育を通じて「八戸市は怖いところだ」とならないように、自然とうまくつきあうためにどうしたらいいか、という観点で取り組んでいる。

中学生には「共助」も教えている。地域の防災訓練には1カ所で10～15人程度の参加があり、高齢者をおんぶしたり、リアカーに載せて避難する訓練も行っている。

今回の視察では、教育委員会教育指導課の他に、市長部局の防災危機管理課主査の方にもご出席いただき、被災状況や地域での防災訓練等の状況も伺えて大変有意義であった。

6 主な質疑項目

- (1) 東日本大震災以後における防災教育の改善点等について
- (2) 「自分自身で考える教育」の具体的な推進策について
- (3) 「防災ノート」を活用した実際の授業の進め方、体制等について
- (4) 防災教育を進めるにあたって、心のケアに配慮していることについて
- (5) 中学生に対する防災教育の進め方について
- (6) 高校に対する防災ノートの活用について

7 その他

【共同視察者】

教育委員会事務局教育調整課長 木城正雄